

レインボーニュース

# Rainbow News

こどもたちへ活きた経済を伝えるためのニュースレター

Vol. 17

経済トレンド対談

ケーザイしゃべり場

前世界銀行副総裁

西水美恵子 × ジャーナリスト 池上 彰

いまの若者たちのアンビションを活かす金融経済教育とは？

明日から使える

📖📅📌📌📌 経済授業

「静岡大学教育学部附属島田中学校」

現場主義 TEEN'S 調査団

中・高校生が  
体当たりで調べた

東京湾岸にそびえ立つエコのシンボル  
「若洲風力発電施設」の秘密を調査せよ!

授業で使える経済トピック

TREND COLUMN

- COLUMN\_1. 今年の冬はこれで乗り切る？  
ほかほかグッズ
- COLUMN\_2. 金相場の高騰・下落の背景に  
あるものとは？
- COLUMN\_3. ふくらみ過ぎた国の借金問題  
ギリシャ債務危機
- COLUMN\_4. 【ザ・ロングセラー】使い捨て  
カイロの定番 「ホッカイロ」

RainbowNews Vol.17 | 2011

## 貧困のない世界をつくること 世界銀行の使命

**池上** 七年前まで西水さんが副総裁を務めておられた「世界銀行」とは、どんな仕事をしている銀行なのでしょうか。

**西水** 世界銀行は、貧困のない世界をつくるための銀行です。市場から自力で資金を借りることができない発展途上国に対して、二十年から四十年という長い期間、できるだけ低いコストまたは無利子で融資して、その国の社会や経済の発展のために役立つプロジェクトに使っていただくのが使命です。

**池上** 国連やユニセフのように、寄付金を募って、集まった資金で基金を組み、無償で援助する機関だと思われがちですが。

**西水** 全く性質が異なります。ひとさまの大切なお金を市場からお借りし、運用し、融資し、きちんと回収して市場にお返しする。一般の銀行と同じく、市場原理に基づいた本物の「金融機関」です。

**池上** ただ、国家リスクが高い発展途上国や貧しい国に長い期間でお金を貸すわけですから、事業リスクも高くなりますね。

**西水** ですから、世界銀行の金融運営が、とことんうまくいっていないといけない。実際、ここ数十年、世界銀行は金融機関として「AAA（トリプルA）」という最高の格付けをいただいています。そうでないと、リスクの高い発展途上国にできるだけの低コストで、長期間お金を貸し付けることはできません。

**池上** 意外と知られていませんが、日本も世界銀行のお世話になっていますね。

## 「今」がわかる 経済トレンド対談

### シジョンを活かす金融経済教育とは？

1997年から2003年まで、世界銀行の副総裁を務めた西水美恵子さんに、「世界から貧困をなくすのが使命」という世界銀行の仕事はどんなものか、彼女が高く評価する「いまの若者たち」にとつての金融経済教育の重要性とは何か、語ってもらった。

# 池上 彰

ジャーナリスト

**池上 彰**(いけがみ あきら)  
長野県松本市出身、1950年生まれ。慶應義塾大学卒業後、1973年NHK入局。報道記者として、松江放送局、呉通信部を経て東京の報道局社会部へ。警視庁、気象庁、文部省、宮内庁などを担当。1994年より2005年3月までNHK「週刊こどもニュース」でお父さん役を務める。2005年3月にNHKを退社し、現在はフリージャーナリストとして活躍。著書に『そうだったのか! アメリカ』『そうだったのか! 現代史』『相手に「伝わる」話し方』『日銀を知れば経済がわかる』など多数。



**西水** 第二次世界大戦直後に誕生した世界銀行は、戦争や震災などで破壊され、自分たちの資力では復興に時間がかかりすぎる国に対して、必要な資金とノウハウを提供することも重要な使命の一つですから。

**池上** 首都高速道路や名神高速道路も世銀の融資でつくられた道路ですね。一九六四年に完成した東海道新幹線もそう。その世界銀行からの融資の返済が終わったのは、そんなに昔じゃなかったと思います。

**西水** 一九九〇年だったと思います。他にも、水力発電の大型ダム建設費用などの融資で、戦後の日本の電力開発を支えたのも世界銀行でした。

**池上** 戦後、日本が高度経済成長を実現して、復興を遂げられたのも、世界銀行のおかげと言えるわけですね。

**西水** ただ助けられたわけではありません。当時の報告書には、世界銀行が「十年かかる」と予測したダムを二、三年で完成させた技術力の高さと勤勉さ、工事中に不慮の事故で亡くなられた方を悼む現場のみなさんの態度などに対して「素晴らしい文化を持つ国だ」という賞讃の言葉が頻繁に出ています。それらを読んで、私は「日本人であること」を誇りに思ったものです。

**池上** 長期間低コストで貸し付けを行うという点で、世界銀行は「長期信用銀行」の国際版と考えられるのでしょうか。

**西水** 少しニュアンスがちがいます。世界銀行の株主は、加盟国の Sovereign (ソブリン) と定められています。ソブリンは国際法の専門用語ですが、独立国家を成す意志、即ち国民という意味と考えるのが正しいのです。ですから、世界銀行

行は「世界各國の国民からなる共済組合」  
なのです。

**世界銀行にとって最も大切なのは  
貸すことではなく「貸さないこと」**

**池上** 西水さんは、発展途上国に対して、  
具体的にどんなふうに融資されたのですか。

**西水** 「どれだけ貸さないか」を大切にしま  
した。大抵の銀行は「どれだけたくさん貸  
したか」が業績になります。しかし、本来  
は、なぜ貸さないか、その理由を説明した  
上で「こうすれば、貸せるようになります  
よ」と相手が最善の方法に至るお手伝いを  
するの、銀行マンの根本的な使命だと考  
えています。

**池上** 無制限に貸すことは、かえてその  
国のためにならない。ただ、相手の理解を  
得るのは、大変そうですね。

**西水** その国の大統領や首相に対して「そ  
んなムダな使い方には貸せない」と言う  
と「政治介入する気か」と反発されました。  
しかし、私は「世界銀行を資金面で支えてい  
るのは、あなたではなく、国民です。その  
国民の意見とは異なるから、貸せません」  
と答えました。

**池上** そのまで言うためには、西水さん自  
身が、その国の国民の実態や願望、把握  
しなければならなりませんね。

**西水** 発展途上国の国民のほとんどは、貧  
しい人たちです。そんな国民の意思は、  
権力者たちに、なかなか届かない。私は「透  
明な国民」と呼んでいましたが、そういう、  
見えない、聞こえない国民の意を汲み取る  
ことが重要だと思っていました。

**池上** どうやって汲み取ったんですか。

# ケーザイしゃべり場

Vol.17 TALK THEME いまの若者たちのアンビ

## 西水美恵子

元世界銀行副総裁

西水美恵子（にしみず みえこ）

大阪府豊中市出身、北海道美唄市で育つ。東京都立西高等学校在学中、交換留学生として渡米し、大学に入学。1975年、プリンストン大学経済学部の助教授に就任。1980年世界銀行に入行。1992年に国際復興開発銀行リスク管理・金融政策局局長となるなど、要職を歴任する。1997年、南アジア地域副総裁に就任し、2003年に世界銀行を退職するまで務める。2007年より、シンクタンク・ソフィアバンクのシニア・パートナーとなり、現在、執筆、講演などで世界を飛び回る。



**西水** 最終的には「自分で体験するしかない」と思って、各担当国の貧村にホームステイしました。初めての体験はスリランカとパキスタンで、それぞれ数週間ずつ。「世界銀行の幹部」であることは忘れて、一人の村人として私を受け入れてくれるようアレンジしていただきました。あれほど貴重な経験はありませんでした。

**池上** 普通、銀行の幹部がわざわざそんなことしませんよ。世間一般からみるイメージとは全くちがう仕事のやり方ですね。

**西水** 私だけではありません。世界銀行の職員はみんな、「貧しい国の人たちのためにになりたい」という情熱を持って入って来る。しかし、大きな組織ですから官僚的な力カルチャーが避けられず、最初の情熱も徐々に薄れていく。ですから、彼らのパッションに再び火を点けるために、もっと草の根に密着した、「いい銀行マン」としての仕事をしてもらうために、私の下で働く条件として「貧村ホームステイ」を課しました。

**池上** 他の職員たちにも……ですか。

**西水** 私が体験したあと、直属のマネージメントチームの局長クラスを集めて「貧村ホームステイをやりたくないなら、この局から出て行け」と命令しました（笑）。

**池上** どうなりました。

**西水** 体験してもらって、一週間後に合流したら、人間が変わっていました。

**池上** たった一週間が変わった？

**西水** みんな、以前とは、逆さまになっ  
て帰って来てくれました。

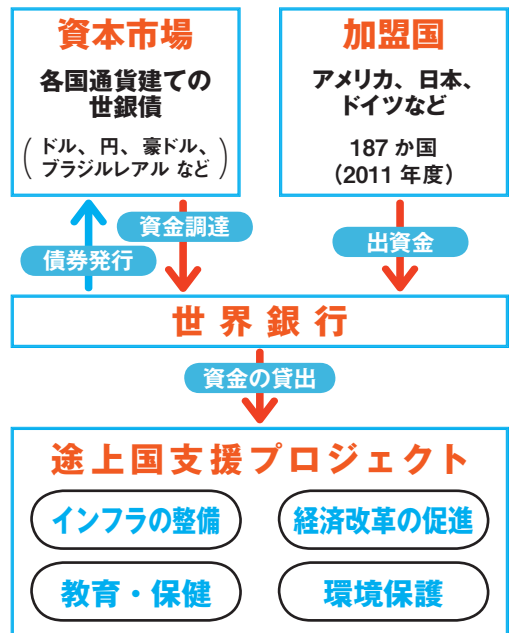
「貧村ホームステイ」の体験が  
職員を本物の銀行マンに変えた

# ケーザイしゃべり場

Vol.17 TALK THEME  
いまの若者たちのアンビションを活かす  
金融経済教育とは？

## （世界銀行の役割）

世界銀行グループは5つの組織から成るが、そのうちの国際復興開発銀行（IBRD）と国際開発協会（IDA）を「世界銀行」と呼ぶ。IBRDは、比較的信用力のある途上国や新興国に利子をつけて貸出を行い、IDAは最貧国向けに無利子の融資などを提供している。いずれの機関も、資金だけでなく開発に必要な技術協力や知識の提供を行い、発展途上国や新興国の安定的な成長や貧困削減を支援している。



## （経済の専門家に聞く 最近の世界情勢について）

その1  
今の「ギリシャ危機」についてどのように見えていますか？

「ギリシャ危機」を引き起こした要因の一つは「ユーロ共同体」のデザインをまちがえたことにあると思います。財政政策は各国個別のままにして、金融政策だけをユーロ内で統一してしまった。ですから、もし将来的に財政政策も一本化する「欧州合衆国」を実現することができれば、状況はちがってくると思います。

その2  
このギリシャ危機から日本が学べることは何ですか？

日本の国民は意識が高いですから、国の財政債務に何からの危機感を持っていると思います。その危機感から目をそらさず、リスクをしっかりと見極めること。根本的には政治の問題になるので、解決には時間がかかります。ですから、まずは自分の家計を見直すことが重要です。

経済や金融の仕組みを教えれば、子どもたちにも世界が見えて来るのですね。（池上）

池上 どんなふうに変ったのですか。

西水 たとえば、次年度の予算の仕分け会議のとき、以前は「部あって局なし、局あって世界銀行なし、世界銀行あってお客様なし」の状態で、予算を取り合って喧嘩するし、無駄使いも多かった。しかし、発展途上国の家族の一員になって極貧生活を体験すると「貧しい人々、つまり、世界銀行のお客様、のことを自分は全く知らなかった」と気づかされます。

池上 その結果、どうなりましたか。

西水 一例をお話ししましょう。次世代を担う年代の女性の教育は、発展途上国の社会や経済の発展に大きく影響するので、女性の成人教育の向上には積極的に融資します。その教育を担当している局長が、予算会議で、涙声でこう発言しました。「ホームス

テイ先の、村のお母さんが『読み書きができないのは本当に辛い』と泣いたので『習えるように学校を建てるよ』と言ったら『でも、習う時間がない』って」

池上 学校ができて通う時間がない？

西水 南アジアの貧村の女性は、一日に平均六、七時間を水汲みに費やします。さらに家事はもちろん、薪集めや畑仕事、家畜の世話まであるので、自分の時間なんて全くない。しかし、彼はそれまで「貧しい家庭の女性は学ぶ意思がない」と考えていた。

池上 「学ぶ気がないから読み書きができない」と思い込んでいたんですね。

西水 意思があっても時間がなかった。その事実が気づいていなかった。だから、会議のとき、教育担当の局長は「女性の成人教育は本当に大切だけれど、まず水道をひ

くことから始めなければいけない。うちの予算を削ってインフラ局に回してくれ」と言い出した。すると、同じく貧村ホームステイを体験したインフラ局長は、水道は読み書きを教えてくれない。うちの予算を教育に回すべきだ」と反論しました。

池上 「予算の奪い合い」ではなく「譲り合い」で喧嘩し始めたわけだ。

西水 他の局も同じ体験を共有していますから、最終的には、局とか部とか関係なく「戦略的に大切な仕事に優先的に使う」という仕組みがつけられました。以前は喧嘩の仲裁役だった私が、その会議では、涙を流しながらただ見守るだけでした。「世界銀行の職員という立場からは現場の生の情報が入らない。ひとりの人間としてお客様

の中に入って、いかにいい銀行マンとしての仕事はできない」って、みんな、わかってくれました。

池上 現在、韓国のサムスンが世界市場を席巻している理由と似ていますね。サムソンの社員は世界中にちらばって、何カ月か何年か、必ず現地生活する。そのうちの

アフリカに住む社員が「懐中電灯付き携帯電話」を提案して、大ヒットさせた。日本では考えられない、付属機能ですが、電灯のない地域ではものすごく便利なんです。大事なことは「お客様を知ること」。それを西水さんは世界銀行で実践した。なんだか、仕事の本質、を教わった気がします。

西水 金融の仕事にたずさわる人間は、貸したお金が最終的にどういうリアルな活動のなかで動いているのか、常に知っておく

西水氏が語る  
世界銀行に入った理由  
～貧困との闘いを  
決意した日～

エジプト・カイロでの  
ナディアとの出会い

プリンストン大学の助教授だった私は、1年間のサバティカル（研究休暇）を世界銀行の研究所で過ごすことにしました。

副総裁から「一度は発展途上国の生の現場を見た方がいい」と言われたので、週末、エジプトのカイロに行きました。

都会に隣接するイスラムの墓地、貧しい人々が住みつく「死者の町」と呼ばれるスラムを歩いていたときのことでした。

女性が1歳くらいの子どもを抱え、地べたに座ってわんわん泣いていました。「この子は病気だ」と言うので「医者を呼ぶから、あなたは休みなさい」と諭し、その子を抱きとりました。空気みたいに重さがありませんでした。「ナディア」という名の女の子は、私の腕の中で息を引き取りました。

体じゅうの細胞がバラバラになったような感覚に襲われました。周囲を見回すと、夕暮れどき、立ち並ぶ高級マンションには明かりが灯り、その回りを高級乗用車が何台も行き来していました。

私は直感的に思いました。『貧富の格差を生み続ける悪い統治、貧しい人たちのことを気にもかけない為政者たちが、この子を殺したんだ!』

そのとき、私は人生の選択をしました。プリンストン大学に戻って恵まれた子どもたちに経済学を教える生活ではなく、世界銀行に残って、貧しい人々を苦しめる世界中の「貧困」と闘う道を選んだのです。

対談を終えて

発展途上国を助ける世界銀行に  
本来の金融のあり方を教わった



世界銀行は国際援助団体ではなく、市場から資金を集めて融資する、れっきとした金融機関です。お話を伺って、世界銀行がきちんとした運営を続け、「トリプルA」の格付けを維持しなければならない理由は「発展途上国に低金利で長期間お金を貸して、貧しさから脱出するお手伝いをする」という使命を果たすためだとわかりました。「リーマン事件」での金融ビジネスの目的がグリード（強欲）だったことに落胆していた私たちに、改めて「本来の金融のあり方」を教えてくださいました。

「ひとや社会のために」という思いと金融経済教育を組み合わせれば、素晴らしいことが起きる気がします。(西水)

べきです。そのうえで自分の「倫理」を確  
認しなければ、金融という仕事はどんな  
危なくなっていくと感じています。

「世のため、ひとのためにになりたい」  
若者たちの思いと金融経済教育

池上 ところで、西水さんは最近の若者に  
ついてどうお考えですか。バブル崩壊後に  
生まれ育った最近の若者は、前の世代の若  
者に比べて「覇気がない」「おとなし過ぎる」  
という意見もあるようですが。

西水 私は、そうは思いません。日本に帰  
るたび、心がけて若い世代に会うようにし  
ていますが、小学生、中学生、高校生、大  
学生、若い社会人……みんな、すごく元氣  
があると思うんです。  
池上 どういうところが「元氣」だと？

西水 私が小さい頃は「世のため、人のた  
めになりたい」と思っても、なかなか実行  
に移せなかった。でも、今の若い世代は、  
ひとや社会のための活動には積極的に、す  
ぐ実行に移す人も多い気がします。

池上 昔の「もっと上を目指す」「社長に  
なる」というわかりやすい向上心ではなく、  
今は「世のため、ひとのためにになりたい」  
という思いを強く持ち始めた。

西水 そんな、前とはちがった品質のアン  
ビション（野心）を地域や社会のために  
活かせるようサポートするのが、私たち大  
人の役目じゃないかなと思っています。

池上 日本の「教育」は、どうでしょう。  
西水 日本で増え続ける所得の低い層は、  
二世代目に入っています。自立で貧し  
さから這い上がるには、質の高い教育を受

けるチャンスが平等であることが条件で  
す。しかし、今の日本では、いい教育を受  
けたければ、お金をかけなければならぬ。  
そんな「教育の格差」をなくすことが日本  
の急務だと、私は思います。

池上 では、今の若者、たとえば中学生た  
ちに対して、金融や経済について教えるこ  
とには、どんな意味があるのでしょうか。

西水 金融や経済の教育は、とても大切だ  
と思います。私は大学で初めて経済学を学  
んだとき『経済人としての自分と国との関  
係をみる学問なんだ』と感動しました。

池上 「自分と国の関係をみる学問」とは、  
具体的には、どういうことでしょうか。

西水 経済学は、人間の欲望からくる経済  
行動の集約がどういうもので、それを良い  
方向に持って行くにはどういう政策が必要

か、整理する学問です。社会に生きる人間  
として、自分だけのことを考えるのではな  
く、地域や国のためになる経済行動の集約  
の仕方や、そのなかで自分はどう行動する  
べきかを考える……そういう観点を持たな  
いと理解できない学問なのです。

池上 日常生活での自分の経済行動は世の  
中とどのような関係があるのか、自分の行  
動がどう世界に関わり、あるいは世界経済  
が自分にどう関係してくるのか、そういう  
経済や金融の仕組みを教えれば、子どもた  
ちにも「世界」が見えて来るのですね。

西水 そのような教育と、今の若者たちの  
「ひとや社会のためにになりたい」というア  
ンビションを組み合わせれば、近い将来、  
素晴らしいことが起きるのではないでしょ  
うか。